

## 助成事業実施報告書

団体名 ..... 全国婦人相談員連絡協議会

代表者・役職名 氏名 ..... 会長 松本周子

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

「震災時相談対応マニュアル」に基づいた婦人相談員研修

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

本会は「売春防止法」「DV防止法」等に基づき設置された婦人相談員による任意団体として、1960年11月に設立しました。会員(522名)の相談援助技術の向上を目指した各種研修会の開催、関係機関及び会員相互のネットワーク機能の充実を図る活動を通して女性の権利擁護を目指しています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東日本大震災での教訓が活かされないまま、熊本地震直後の混乱した現場で、熊本の婦人相談員たちは手探りで相談業務にあたっていました。今後、いつ起きるかもしれない災害に備え、被災した女性の人権を守り、安心して復興に向かうための心の支えとなる相談業務を遂行するために、災害時対応に特化したマニュアルを作成し、その習得のための研修会を開催し、相談員の対応能力の向上を図ることを目的としています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

被災当初から数年後までの被災者の心の動きや周囲の状況、相談員自身の心構えなど当時の様子を集め、浮かび上がった問題や課題を検証し、具体的な対応方法についてのマニュアルを作成します。また、被災者がどこの窓口でも安心して相談できるよう、本会会員のみならず相談業務にあたる他機関の相談担当者も含めた相談対応研修を開催して、相談窓口の資質向上を図ります。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

「災害時の相談対応～婦人相談員ハンドブック～を作成し全国の会員へ配布しました。

また、そのハンドブックを使った研修会を全国4ヶ所で開催し、会員74人および他機関で相談対応にあたる職員等、合わせて延べ120人の参加がありました。

日頃から災害に対する高い意識を持ち、災害への備えや平時からつながりを作っておくことの大切さを実感した等の感想があり、災害に対する意識を保つ機会となる本研修会を定期的で開催してほしいという声もありました。当初は全国3ヶ所での研修会を計画していましたが、本事業期間中に1地区での追加開催となり、今後も複数箇所での研修会開催にむけて調整を行っています。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

本ハンドブック研修を通じて、時間経過に伴う被災者の心情の変化や避難所での性暴力の実態など、深く掘り下げて実態把握を継続していかなければならないという点が課題としてありました。

これら情報を集めて繋ぐ中核としての役割、ネットワーク作りが本会に求められていると実感しました。

今後、集めた情報を元にハンドブックの改訂を視野に研修活動を続けていこうと考えています。

## 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

- ・ 災害時の相談対応～婦人相談員ハンドブック～
- ・ 研修会開催要項
- ・ 研修会の様子（写真）

災害時の相談対応—婦人相談員ハンドブック研修

2018・6・16

会場 岡山市

